

## チームワークとリーダーシップについて

竹村七海 学籍番号 1833030 守屋志保ゼミ

本研究では今年度、男女バスケットボール部の4年生が積極的にリーダーシップをとっていたことを踏まえ、チームワークがよくなるためには限られたメンバーがリーダーシップを取るべきなのか、リーダーシップを取れる人が多い方が良いのかを調査し、リーダーシップの重要性とそれがチームに良い影響を与えるかを明らかにすることを目的とした。

先行研究によれば、集団にはリーダーという人物が存在し、スポーツ集団におけるリーダーは主将であり、主将には集団をまとめるという重要な役割がある。特にチームスポーツにおいて主将のリーダーシップは、チームに大きな影響を与えられると述べられている。これを踏まえ、本学の女子バスケットボール部、男子バスケットボール部Aチームにアンケート調査を行った。

リーダーシップをとる人物がスポーツ集団には必要であると仮定し、その人物が必ずしも主将でなければならないのか、という点に注目しアンケート調査を行った結果、多くの割合で、主将のみならず複数のメンバーがリーダーシップをとれるほうが、チームの掲げる目標を達成できるのではないかという結果となった。何人かがリーダーシップを取れることによってチームの練習の質が上がり、高い目標に向かって全員が練習にのぞむことができると考えた。自分自身1、2年の頃はリーダーシップを取れるような性格ではなかったが上級生になるにつれて、リーダーシップを取れるように日々の練習でも努力してきた。最初は仲間と厳しく言葉を言うことが出来ないことや、思っていることもなかなか言うことが出来なかった。しかし、チーム全員で試合に勝ちたいと考えた時に、厳しい言葉掛けや、伝えることが大事だと思い、仲間と言葉掛けを続けた。

チームワークの部分では目標を達成するために仲間と協力しながら練習や試合にのぞんだ。チームワークは仲間同士で助け合い、お互いの弱点を補完することで、個人では達成できない目標も組織として成し遂げる時に発生する力のことをいう。メンバー全員が共同体になり、一貫した方向性のもとに活動を行うことでチームとして適切に活動することができる。チームワークの向上にはいくつかのポイントがあるため、仲間の意識改革をしていくことが大事になってくる。アンケート調査の結果から女子バスケットボール部はチームワークがあると感じていた人が多く、目標に向かって全員が統一して練習を行っていることがわかり、リーダーシップも4年生中心に厳しい言葉掛けも出来、キャプテン以外のメンバーもリーダーシップを取れていることがわかった。

男子バスケットボール部も同様に4年生中心にチームワークとリーダーシップが取れていたことがわかった。

本研究の結果からチームワークとリーダーシップは主将だけでなくチーム全体で出来ていることがこの結果からわかった。男女共に今年のチームはチームワークが良くリーダーシップをしっかりと取れていたことがわかった。